

# 私立大学研究ブランディング事業 平成30年度の進捗状況

学校法人番号	041005	学校法人名	朴沢学園		
大学名	仙台大学				
事業名	プロ球団とのアカデミックパートナーシップに基づく地域創生型スポーツ社会モデル形成事業				
申請タイプ	タイプA	支援期間	3年	収容定員	2256人
参画組織	体育学部体育学科、運動栄養学科、スポーツ情報マスメディア学科、スポーツ健康科学研究実践機構				
事業概要	スポーツ文化の活性化による地域の振興は地域創生の一つの課題である。体育スポーツ系大学である本学は、そのスポーツ科学研究ノウハウを活用し仙台に進出したプロ3球団の事業活動を「する・みる・ささえるスポーツ」の3側面に着目して研究分析しスポーツの振興を通じた地域社会の活性化効果を解明する。それをベースに地域創生型スポーツ社会モデルを提示し地域での活用方策の導入展開を図る。				
①事業目的	本事業では、スポーツ文化のもつ3つ側面、「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」に着目し、仙台市に進出したプロ3球団の事業活動を研究対象として設定し、体育スポーツ系大学である本学の研究ノウハウを活用し、地域社会の活性化に果たすプロ球団の齎すスポーツ文化の展開について、スポーツ科学的視点を踏まえた社会活性化効果の解明とその解明結果の地域での活用、それを通じてスポーツを核とした地域社会の活性化を狙いとするを事業目的とする。				
②30年度の実施目標及び実施計画	<p><b>実施目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の初年度として、在仙プロスポーツ球団と共同研究の実践開始の認知度の拡大を図る。</li> <li>・プロスポーツ球団との相互ノウハウ交流を行う教育プログラムのスタート。</li> </ul> <p><b>実施計画</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①在仙3球団(プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルス、プロサッカーJリーグベガルタ仙台、プロバスケットボールBリーグ仙台89ers)とのアカデミックパートナーシップ締結。</li> <li>②プロスポーツ球団ノウハウを取り入れた授業の開始。 初期課程学生の3球団スポーツノウハウ体験学習の実施、専門課程学生による専門領域(スポーツコーチング・トレーニング・マネジメント・スポーツ栄養・スポーツ情報分析)インターンの派遣、大学講義へのプロスポーツ球団専門スタッフの講師受け入れ。</li> <li>③本事業に関する情報発信専用サイトの立ち上げ。</li> </ol>				

<p><b>③ 30年度の事業成果</b></p>	<p>①在仙3球団とアカデミックパートナーシップ協定を締結。 平成30年4月27日、J1ベガルタ仙台とのアカデミックパートナーシップ協定締結式を行い、地元新聞社である河北新報社をはじめ日刊スポーツ、スポーツ報知の取材を受け翌日の新聞紙上に関連記事が掲載された。</p> <p>②プロスポーツ球団のノウハウを取り入れた授業を開始。 人生設計科目・キャリアプランニングⅡ(必修科目)を開講し、3日間のインターンシップ実習(職場体験学習)の機会を通じて、プロスポーツ現場の体験学習を行った(楽天:28名、ベガルタ:16名、89ers:23名)。プロスポーツ現場において学生の希望に応じ、コーチング、情報分析、アスレティックトレーニング、栄養指導等のスポーツを支える機能としてのインターンシップ実習(職場体験学習)を実施し将来の職業像を具体的に描くことのできる貴重な機会を提供できた。 専門課程(スポーツマネジメントコース)所属学生には、プロスポーツ球団のマネジメントの知識・技術の体験学習を実施し、将来の就職先に大きな影響を与えるインターンシップ実習となった(楽天:2名、ベガルタ:4名、89ers:2名)。 発展科目「スポーツ情報戦略論(体育学科 選択必修)」において、東北楽天ゴールデンイーグルス チーム戦略室長を講師として招聘し、受講生約60名にプロ野球球団における分析業務の役割と位置付けやスポーツアナリストの仕事概要などトッププロスポーツの現場を具体的に知る機会を得ることができた。 専門基礎科目「スポーツ指導の基礎(体育学科以外 必修科目)」において、東北楽天ゴールデンイーグルス アカデミーコーチ(ジュニア担当)を招聘し、プロ1軍選手からジュニアまでの指導方法等について教授された。 応用科目「スポーツ施設管理概論」および「スポーツターフ管理概論」において、楽天生命パークの球団施設および天然芝の管理運営業務見学会を実施した。 発展科目「スポーツ広報論」において、外部講師として東北楽天ゴールデンイーグルス広報部長を招聘した。</p> <p>③情報発信専用サイトの立ち上げ。 平成30年度採択事業であるが、採択時期が2月となったため、情報サイトの立ち上げには至っていない。</p>
<p><b>④ 30年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</b></p>	<p>(自己点検・評価) 大学全体の運営に関する重要事項をする審議する組織である学内調整会議において自己点検・評価を行った。</p> <p>本事業の目的および計画、実施体制を確認した。また、事業を進める上での課題についても議論された。平成30年度に設定した計画は「③情報発信専用サイト立ち上げ」を除きほぼ計画通り実施することができた。 外部発信を十分に行うとともに学習成果を測る仕組みについて検討課題があげられた。</p> <p>【実施状況】</p> <p>①在仙プロスポーツ3球団とのアカデミックパートナーシップ協定を締結し研究事業の環境が整備された。</p> <p>②プロスポーツ球団の現場を活用し、教育課程内の人生設計科目「キャリアプランニングⅡ」(必修科目)、発展科目「スポーツクラブマネジメント実習」(スポーツマネジメントコース選択必修)、発展科目「スポーツ情報戦略論(体育学科 選択必修)」、発展科目「スポーツ広報論」(選択科目)、専門基礎科目「スポーツ指導の基礎(体育学科以外 必修科目)」、応用科目「スポーツ施設管理概論」および「スポーツターフ管理概論」において、学生が描く将来のイメージの具体化や、学習成果の実践検証機会の提供、専門資格の取得促進など学修成果の向上に繋がる事業を展開した。</p> <p>③情報発信専用サイトの立ち上げについては、早急に対応を図る必要がある。</p>
<p><b>⑤ 30年度の補助金の使用状況</b></p>	<p>(外部評価) 地元自治体やマスコミ関係者等の外部有識者に対して、事業計画及び期待される成果について説明し以下の意見を得た。 体育系総合大学として、独創性と新規性が認められること、地域創生型スポーツ社会モデルの確立とそのモデル提示による地域社会の活性化が期待できることなど高評価が得られている。 研究活動について、「みる」「する」「ささえる」というスポーツの3つの機能に着目し、プロ3球団の事業活動を対象とした体育系スポーツ大学としての研究ノウハウの活用が期待できる。 ブランディング活動として、地域創生に貢献する実践型スポーツを教育研究する大学というイメージの確立・浸透とブランド形成の促進に期待したい。</p>
<p><b>⑤ 30年度の補助金の使用状況</b></p>	<p>経常費補助金を原資とした研究経費は、以下の用途にて使用した。 プロ球団とのアカデミックパートナーシップ契約に伴う委託管理費および消耗品費、人件費等。</p>